惣作（そうさく）遺跡

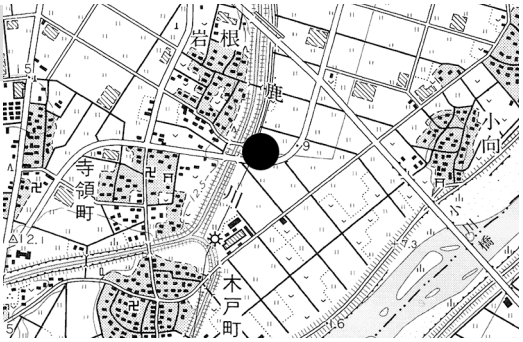
所　在　地　安城市木戸町
（北緯34度54分00秒 東経137度5分38秒）

調査理由　床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）

調査期間　平成23年11月～平成24年１月

調査面積　2,200㎡

担　当　者　松田 訓・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「安城・西尾」）

調査の経過　調査は、鹿乗川改修工事にかかる事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。当該遺跡は、これまでに当センターによって3度（平成16・20・21年度）発掘調査が実施され、近接して安城市教育委員会による発掘調査も1度実施されている。

立地と環境　遺跡は、安城市東部の鹿乗川とその左岸の沖積地上に展開する。現在の鹿乗川流路は碧海台地東縁崖下の南北を直線的に流れるが、これまでの発掘調査で、古代以前は大きく蛇行していたことが判明しており、遺跡は旧流路とその周囲の自然堤防上に立地する集落遺構で構成される。集落遺構は弥生時代中～後期、古墳時代前期、古代のものが確認されている。

調査の概要　調査区は、鹿乗川とその東に併行する用水路との間にある通称「中堤」を対象として設定した。幅160m×長さ18mの対象地を南から11A・B区の順で調査した。ここでは調査の中心となった11A区の概要を報告する。

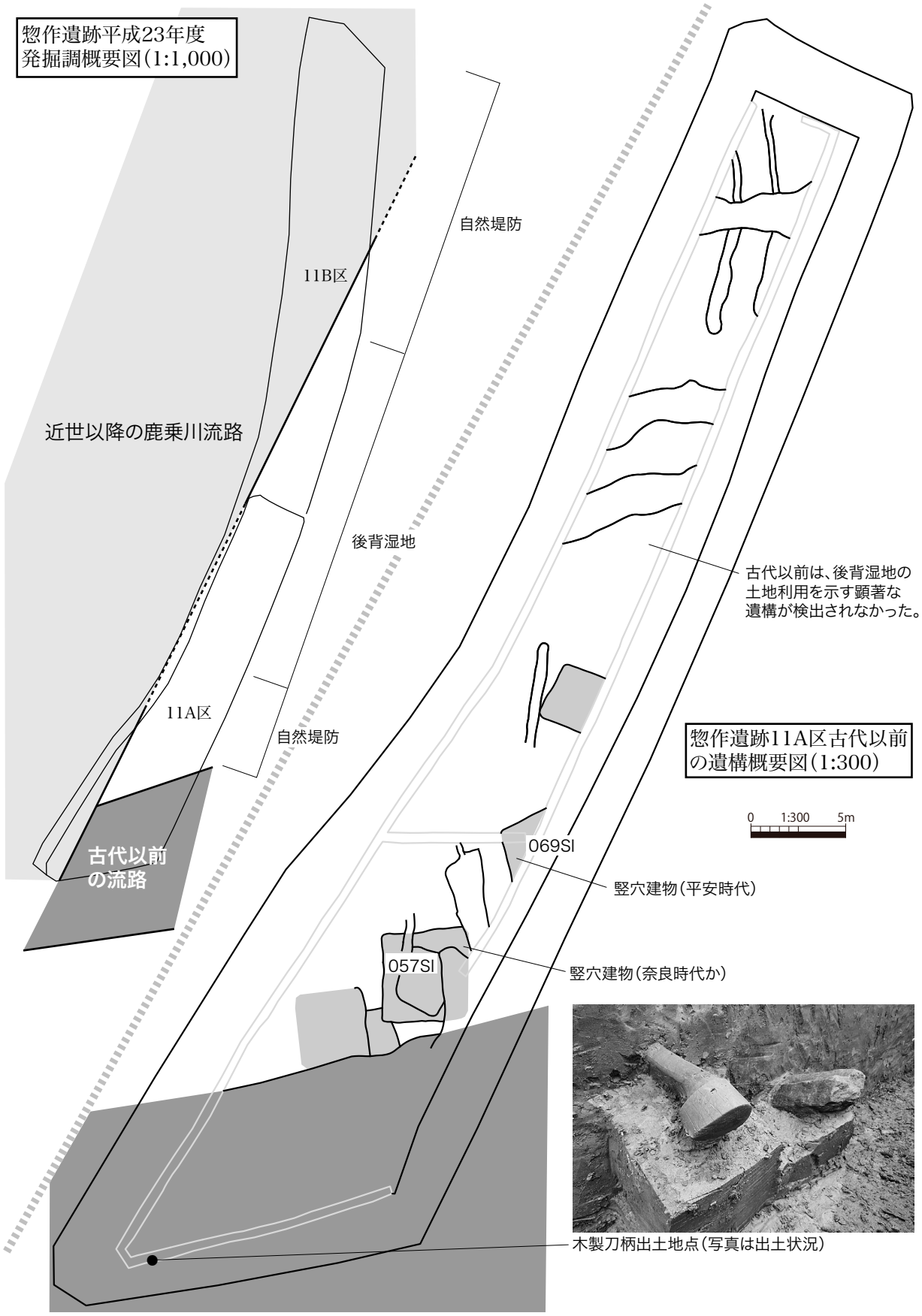
11A区では、調査区南端で流路堆積の一部を検出し、その北側で幅約20mの自然堤防の頂部、さらにその北側で後背湿地となる自然地形を検出した。

流路は概ね上下2層に区分され上層（黒褐色粘土層）で古墳時代前期から奈良時代までの遺物が、そして下層（灰色砂質シルト層）で古墳時代初頭の遺物がそれぞれ包含されていることを確認した。検出範囲はほぼ平らともいえる緩斜面で、調査区南壁でようやく傾斜角度が増している。なお下層より下は極細粒砂主体のラミナ状堆積で、弥生時代以前は水流のある川であったことがわかる。特記すべき遺物は、調査区南壁で出土した木製品刀柄で、古墳時代初頭～前期と考えられる。

自然堤防頂部では、奈良時代から平安時代の竪穴建物６棟を検出した。時期は、包含層での遺物出土状況から8世紀前半と9世紀後半に分けられる。後者（069SI）では墨書のある灰釉陶器も1点出土している。

後背湿地は古代以前の土地利用がほとんどなく、古代末期以降になって水田などの耕作地化が進んだようである。調査区ほぼ全体にみられる黒色粘土層中で畦畔状遺構が検出され、その直上で灰釉陶器・山茶碗が出土している。後背湿地は11B区の南半部まで続き、その北側で09C区でも検出された自然堤防頂部に至る。

近世以降の遺構は、直線化した鹿乗川に関わる土木工事の跡が検出され、杭や陶磁器・漆椀が出土している。（永井邦仁）



惣作遺跡　平成 23 年度発掘調査の概要

惣作遺跡　11A 区全景（古代の遺構面 南から）

惣作遺跡　11A 区全景（中世の水田遺構 北から）